

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第32週 （8月7日～8月13日）

★お知らせ

○夏型感染症（手足口病・ヘルパンギーナ・咽頭結膜熱）に気を付けて

1)手足口病

定点医療機関当たりの報告数は第31週の2.83から第32週では1.20と急減しました。県全域から報告があり、高知市、中央西、須崎で急減、中央東で減少しましたが、幡多で注意報値を超えており引き続き注意が必要です。

年齢別にみると、1歳が39%と一番多く、6歳未満の報告が全体の89%と殆どを占めています。

病原体検出情報では、第28週に搬入された検体で、須崎からCA6（Coxsackievirus A6）が3件検出されています。

国内の手足口病由来ウイルスの検出状況は、2017年第1週から第29週までの合計でCA6が62.4%と最も多くなっています。

感染経路としては、飛まつ感染、接触感染、糞口感染が知られているので、以下のことに注意して感染予防しましょう。

<予防対策>

- 接触感染を予防するために大人も子どもも手洗いをしっかりとすること。（タオルの共有はしない）
- 排泄物を適切に処理し（塩素系漂白剤が消毒効果があります）、しっかりと手洗いをすること。
- 治った後も比較的長い間（2～4週間）便中にウイルスが排泄されるため日頃からの手洗いが大切

<手洗いについて>

石けん液を使いよく泡立てて洗い、流水でしっかり流します。指先や爪の間、指の間や親指の周り、手のしわ、手首までしっかりと洗うようにしましょう。

2)ヘルパンギーナ

定点医療機関当たりの報告数は第31週の0.53から第32週では0.33と減少しました。須崎、高知市、中央西で急減しています。

患者の咳やくしゃみなどのしぶきに触れることによって感染（飛まつ・接触感染）するので、一般的な予防対策（手洗い、うがい、咳エチケット等）を心がけることが大切になります。また、症状がおさまった後も、2～4週間程度は便などにウイルスが排泄されるため、トイレの後やおむつ交換の後、食事の前の手洗いを徹底しましょう。

3)咽頭結膜熱

定点医療機関当たりの報告数は第31週の0.43から第32週では0.23と減少しました。幡多、中央西で急減していますが、高知市で増加、中央東で急増しています。

感染経路は通常、飛まつ感染または手指を介した接触感染ですが、プールでは眼の結膜からの感染も考えられています。以下のことに気を付け、感染予防に努めましょう。

- 1)流行時には流水と石けんによる手洗い、うがいを励行しましょう。
- 2)感染者との密接な接触は避けましょう。
- 3)タオル等は別のものを使いましょう。
- 4)プールからあがった時はシャワーをよく浴びましょう。

消毒方法

手指に対して：流水と石けんによる手洗い、および70%エタノール。

器具に対して：煮沸、次亜塩素酸ソーダ（消毒用エタノールでは消毒効果が弱く、逆性石けん、イソプロパノールには抵抗性なので注意）

また、プールを介しての流行はプールの塩素濃度を適正（遊離残留塩素濃度が0.4mg/l～1.0mg/l以下）に維持することが対策になります。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第31週の2.50から第32週では2.43と横ばいです。中央西で急減していますが、須崎で急増しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルスが2例、細菌の病原性大腸菌やカンピロバクター属菌を原因とする胃腸炎4例の報告もあります。

感染性胃腸炎の予防には、手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には、石けんでよく手を洗い、タオルは共用せず専用のものにしましょう。感染した人の便やおう吐物には、直接触れないよう、使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処分してください。

高温多湿な季節となりました。細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（①つけない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱（85℃で1分以上）は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけて下さい。

○RSウイルス感染症に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第31週の0.67から第32週では0.87と増加しています。中央東で急減していますが、中央西、幡多で急増しています。

全国では定点医療機関当たりの報告数は第26週以降増加が続いています。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。一方、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があります。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。

予防接種ワクチンはなく、患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。

○インフルエンザに気を付けて！

8月に入って、県内の医療機関からインフルエンザA型の報告がありました。

病原体検出情報では第32週に搬入された検体で、高知市からInfluenza virus A H3 NTが1件検出されています。

例年、夏季においてはインフルエンザの流行は殆ど認められず、現在県内でのインフルエンザの流行も確認されていません。

今後、県内各地域の流行状況に注意するとともに、個人でできる感染予防及び感染拡大防止策をとっていただきますようお願いいたします。

<予防対策>

★手洗いの徹底

★咳エチケット（咳やくしゃみがある方はマスクを着用して下さい。）

★高齢者や乳幼児などは、気管支炎、肺炎などを合併し、重症化する場合があります。

★脱水症状を呈する場合がありますので、水分補給をしっかりと行って下さい。

夏の時期でもインフルエンザに感染することはあります。体調に留意し、発熱等の症状が出た場合医療機関を受診して下さい。

☆野外活動の際にはマダニに注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	効力持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間		
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※ 国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

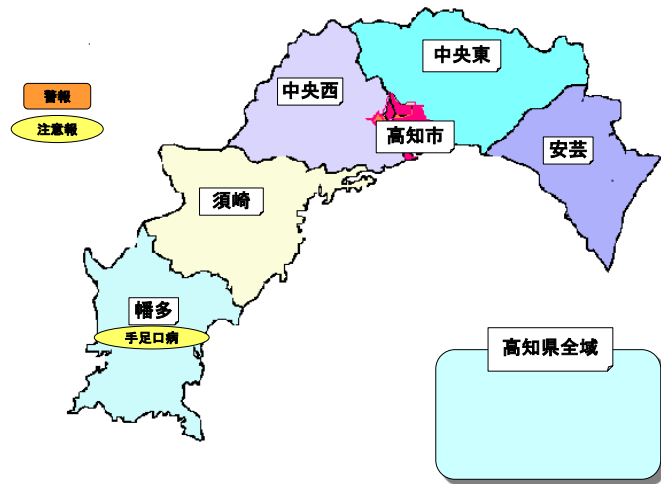
※ 市販の虫よけ剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 32週（8月7日～8月13日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	→	2.43	中央西で急減していますが、須崎で急増しています。
手足口病	↓	1.20	県全域、高知市、中央西、須崎で急減、中央東で減少しています。幡多では注意報値を超えています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.17	中央西で減少していますが、須崎で急増、中央東で増加しています。
RSウイルス感染症	↗	0.87	中央東で急減していますが、幡多、中央西で急増、県全域で増加しています。
ヘルパンギーナ	↘	0.33	須崎、高知市、中央西で急減、県全域で減少しています。

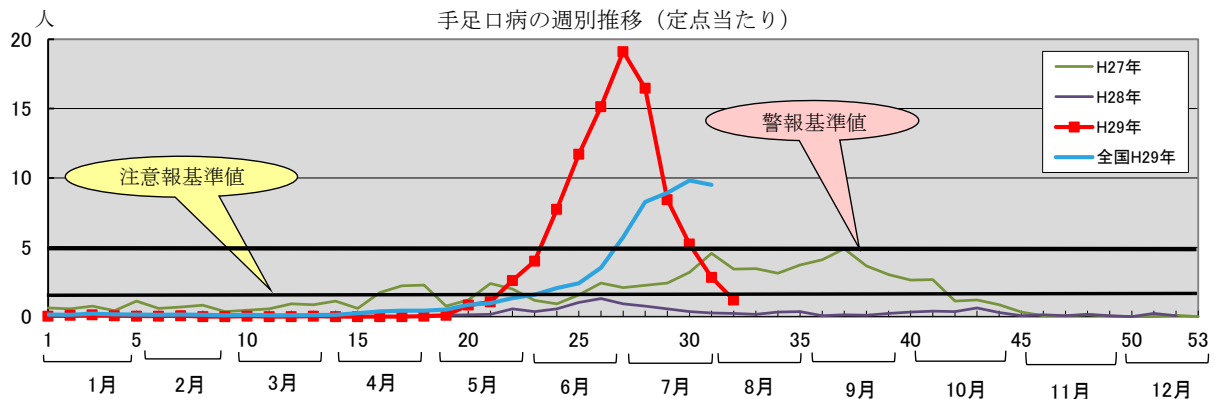
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

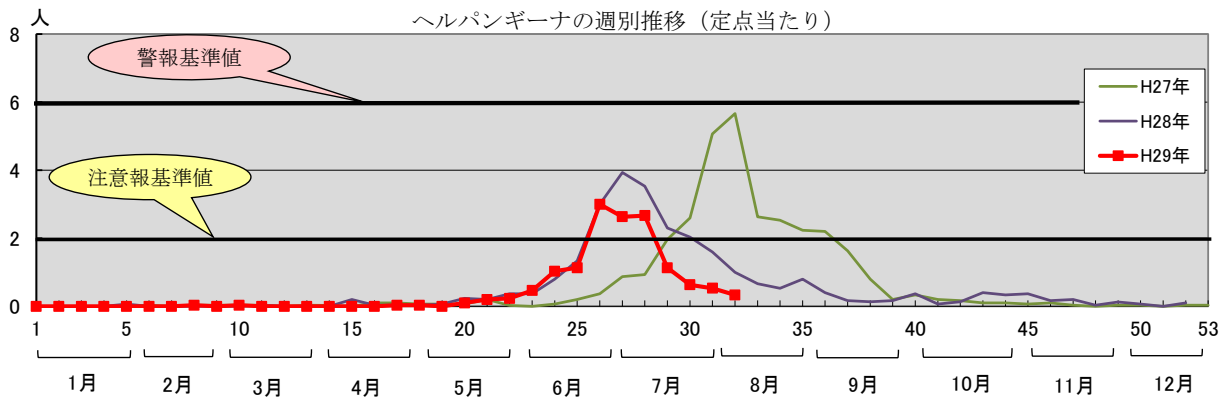
○手足口病 第32週：1.20（注意報値：2.00 警報値：5.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり1.20（前週：2.83）と急減しています。高知市1.00（前週：2.82）中央西0.67（前週：5.00）須崎0.50（前週：4.50）で急減、中央東0.86（前週：1.71）で減少しています。幡多2.80（前週：3.20）で注意報値を超えています。報告を年齢別にみると、89%が6歳未満になっています。



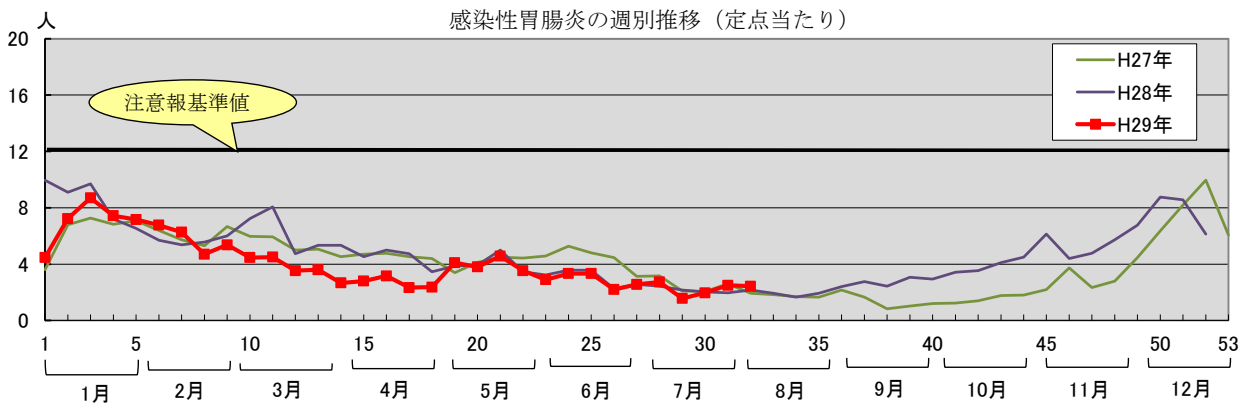
○ヘルパンギーナ 第32週：0.33（注意報値：2.00 警報値：6.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり0.33（前週0.53）と減少しています。須崎0.50（前週：1.50）高知市0.18（前週：0.36）中央西0.00（前週：0.67）で急減しています。



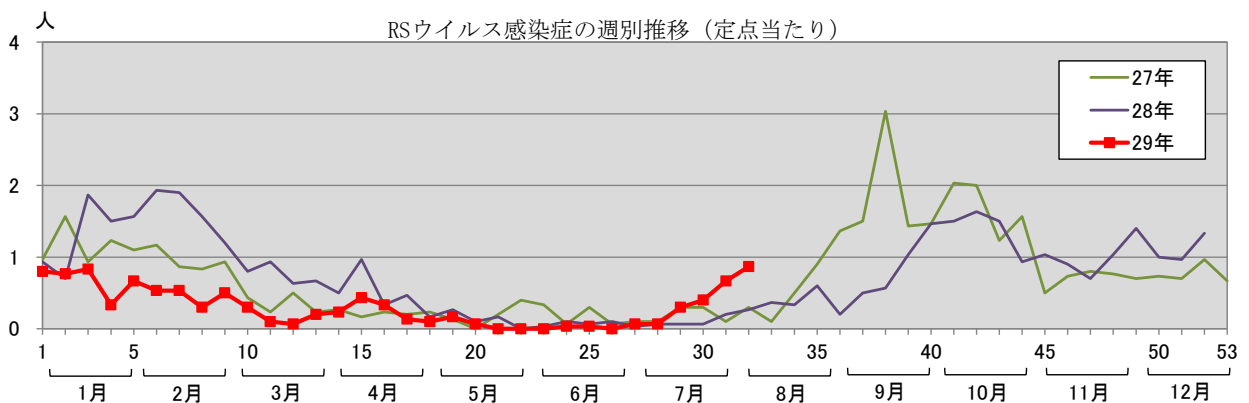
○感染性胃腸炎 第32週：2.43（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり2.43（前週：2.50）と横ばいです。中央西0.00（前週：0.67）で急減していますが、須崎1.00（前週：0.00）で急増しています。



○RSウイルス感染症 第32週：0.87（注意報値：－ 警報値：－）

定点医療機関からの報告数は定点あたり0.87（前週：0.67）と増加しています。中央東0.00（前週：0.14）で急減していますが、中央西1.00（前週：0.00）幡多0.40（前週：0.00）で急増しています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	59	80歳代 女	高知市
		1		60歳代 男	幡多
		1		90歳代 女	
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	16	80歳代 男	中央東
	梅毒	1	13	50歳代 男	高知市

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
32	インフルエンザ	40℃,	13	女	高知市	Influenza virus A H3 NT

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
26	無菌性髄膜炎	39℃,	8	男	幡多	Varicella-zoster virus
27	ヘルパンギーナ	40℃,水疱,中枢神経系障害,	2	女	高知市	Coxsackievirus A6
28	手足口病	発疹,口内炎,	1	男	須崎	Coxsackievirus A6
28	手足口病	39℃,発疹,口内炎,	7ヶ月	男	須崎	Coxsackievirus A6
28	手足口病	39℃,下痢,発疹,	2	女	須崎	Coxsackievirus A6
29	髄膜炎	39℃,嘔吐,嘔気,発疹,	14	女	幡多	Varicella-zoster virus

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	感染性胃腸炎 E.coli O-25 1例 (8歳女)
	おひさまこどもクリニック	カンピロバクター腸炎 1例 (11歳男)
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 1例 (11ヶ月男) カンピロバクター1例 (7歳男) ノロウイルス 2例 (1歳男、4歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	RSウイルス感染症 1例 (2歳男) 溶連菌感染症 11例 溶連菌感染症と手足口病の合併 1例 (2歳男) 咽頭結膜熱 (プール熱) 1例 (1歳女)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 1例 (2歳) 病原性大腸菌 O-128 腸炎 1例 (9歳)
中央西	石黒小児科	RSウイルス 3例 (男2名、女1名) インフルエンザ A型 3例 (男2名、女1名)
須崎	もりはた小児科	手足口病はほぼ終息 マイコプラズマ肺炎 1例 (4歳男) ヘルペス性歯肉口内炎 1例 (2歳男)
幡多	さたけ小児科	アデノ 1例 (3歳女)

★全国情報

第30号 (7月24日～7月30日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核389例

3類感染症：コレラ1例、細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症176例、パラチフス1例

4類感染症：E型肝炎5例、A型肝炎6例、重症熱性血小板減少症候群8例、デング熱4例、日本紅斑熱8例
マラリア2例、レジオネラ症41例

5類感染症：アメーバ赤痢16例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、
急性脳炎11例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症6例、
後天性免疫不全症候群18例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例
侵襲性肺炎球菌感染症27例、水痘 (入院例に限る) 4例、梅毒80例、
播種性クリプトコックス症1例、破傷風5例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、
薬剤耐性アシネトバクター感染症1例

報告遅れ：細菌性赤痢1例、E型肝炎1例、日本紅斑熱3例、ライム病2例、レジオネラ症7例、
レプトスピラ症1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、急性脳炎9例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘 (入院例に限る) 5例、
梅毒55例、播種性クリプトコックス症1例

削除予定：風しん1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第32週 平成29年8月7日(月)～平成29年8月13日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第32週							計	前週	全国(31週)	高知県(32週未累計) H29/1/2～H29/8/13	全国(31週未累計) H29/1/2～H29/8/6
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ				2	4			6 (0.13)	1 (0.02)	993 (0.20)	14,638 (304.96)	1,363,666 (275.49)	
小児科	咽頭結核熱			1	3			3	7 (0.23)	13 (0.43)	2,233 (0.71)	262 (8.73)	54,767 (17.32)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	23	2	1	6	35 (1.17)	37 (1.23)	4,741 (1.50)	1,822 (60.73)	239,078 (75.61)	
	感染性胃腸炎		8	34	28		2	1	73 (2.43)	75 (2.50)	11,855 (3.76)	3,869 (128.97)	571,459 (180.73)	
	水痘		1	1	3	2			7 (0.23)	8 (0.27)	844 (0.27)	410 (13.67)	36,321 (11.49)	
	手足口病		2	6	11	2	1	14	36 (1.20)	85 (2.83)	29,972 (9.51)	2,910 (97.00)	186,827 (59.09)	
	伝染性紅斑			2					2 (0.07)	2 (0.07)	241 (0.08)	106 (3.53)	8,220 (2.60)	
	突発性発疹			2	3			2	7 (0.23)	10 (0.33)	1,529 (0.48)	357 (11.90)	45,677 (14.45)	
	百日咳								()	()	45 (0.01)	20 (0.67)	935 (0.30)	
	ヘルパンギーナ			3	2		1	4	10 (0.33)	16 (0.53)	7,675 (2.43)	427 (14.23)	47,759 (15.10)	
	流行性耳下腺炎				1			2	3 (0.10)	1 (0.03)	1,486 (0.47)	166 (5.53)	56,062 (17.73)	
RSウイルス感染症		2		19	3		2	26 (0.87)	20 (0.67)	4,934 (1.56)	295 (9.83)	35,098 (11.10)		
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	7 (0.01)	()	282 (0.41)	
	流行性角結膜炎								()	()	687 (0.99)	11 (3.67)	14,116 (20.31)	
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	15 (0.03)	2 (0.25)	304 (0.64)	
	無菌性髄膜炎								()	()	33 (0.07)	7 (0.88)	540 (1.13)	
	マイコプラズマ肺炎								()	()	121 (0.25)	69 (8.63)	4,772 (10.00)	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)								()	()	5 (0.01)	6 (0.75)	156 (0.33)	
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								()	()	8 (0.02)	86 (10.75)	4,830 (10.13)	
計	(小児科定点当たり人数)	13 (6.50)	52 (7.44)	95 (8.58)	13 (3.81)	5 (2.50)	34 (6.80)	212 (6.99)		67,424	25,463 (659.75)	2,670,869		
前週	(小児科定点当たり人数)	14 (7.00)	60 (8.58)	120 (10.88)	24 (8.00)	12 (6.00)	38 (7.60)		268 (8.91)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第32週							計	前週	全国(31週)	高知県(32週未累計) H29/1/2～H29/8/13	全国(31週未累計) H29/1/2～H29/8/6
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ				0.13	0.80			0.13	0.02	0.20	304.96	275.49	
小児科	咽頭結核熱			0.14	0.27			0.60	0.23	0.43	0.71	8.73	17.32	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.43	2.09	0.67	0.50	1.20	1.17	1.23	1.50	60.73	75.61	
	感染性胃腸炎		4.00	4.86	2.55		1.00	0.20	2.43	2.50	3.76	128.97	180.73	
	水痘		0.50	0.14	0.27	0.67			0.23	0.27	0.27	13.67	11.49	
	手足口病		1.00	0.86	1.00	0.67	0.50	2.80	1.20	2.83	9.51	97.00	59.09	
	伝染性紅斑			0.29					0.07	0.07	0.08	3.53	2.60	
	突発性発疹			0.29	0.27			0.40	0.23	0.33	0.48	11.90	14.45	
	百日咳										0.01	0.67	0.30	
	ヘルパンギーナ			0.43	0.18		0.50	0.80	0.33	0.53	2.43	14.23	15.10	
	流行性耳下腺炎				0.09			0.40	0.10	0.03	0.47	5.53	17.73	
RSウイルス感染症		1.00		1.73	1.00		0.40	0.87	0.67	1.56	9.83	11.10		
眼科	急性出血性結膜炎										0.01		0.41	
	流行性角結膜炎										0.99	3.67	20.31	
基幹	細菌性髄膜炎										0.03	0.25	0.64	
	無菌性髄膜炎										0.07	0.88	1.13	
	マイコプラズマ肺炎										0.25	8.63	10.00	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)										0.01	0.75	0.33	
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)										0.02	10.75	10.13	
計	(小児科定点当たり人数)	6.50	7.44	8.58	3.81	2.50	6.80	6.99			659.75			
前週	(小児科定点当たり人数)	7.00	8.58	10.88	8.00	6.00	7.60		8.91					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869